

市政を問う

一般質問

※問と答の内容は、各議員本人が要約したものです。
※問の下の氏名は発言議員名です。

福祉・医療

中学三年生までの医療費無料化を

問 岸川 中学三年までの医療費無料化の早期実現を。

答 所得制限、自己負担を設けずに、平成二十二年度中に検討を行い、二十三年度の早期実施に向け、努力していきます。

高齢者医療補助の検討

問 岩崎 七十五歳以上の高齢者は、医療・保険料が負担増になって大変である。市は健康を維持するための特定検診、人間ドック、保養所を利用する時の補助をすべきではないか。

答 市の補助は平成二十二年度中に検討します。

医療検査助成の充実を

問 伊藤 腎臓病の早期発

見・治療につながる血清クレアチニン検査(一回百十五円)を特定検診項目に加えるべきでは。

答 人工透析等の重症化を防止、医療費抑制の観点からも必要と考えます。今後二市一町で協議します。

問 女性の命を守る乳がん・子宮頸がんの検診受診率の向上と無料クーポン券の継続・

予防ワクチンの助成を。

答 クーポン券は国の補助金が二分の一となり厳しい財政状況ではありますが、受診率三〇%を目標に実施します。予防ワクチンは国の動向に注視し検討します。

がんの予防意識普及とワクチンの公費助成

問 前原 『二十歳になつたらがん検診』の啓発ポスターや、就学時検診の時に(母親はがん検診)などの啓発を行い、受診率向上の工夫を。

答 子宮頸がんは実施期間を延長。乳がんは集団検診の回数を増やします。

問 子宮頸がんは、十一歳から十四歳にワクチンを接種するのが最適だが、高額のため親の経済力が影響する。自治体で公費助成を。

答 財源の中で優先順位をつけながら判断していきます。

視覚障がい者の自立応援を

問 岸川 視覚障がい者の方に対する自立の応援を。

答 外出時の不安が、ちょっとした声かけで救われますので、声かけ運動を市報や出前講座で啓発し、環境づくりを進めていきたい。地域生活支援事業で活字文書読み上げ装置を購入された方には、極力通知文書などを音声コード化し、一部の施設の入入り口に設置された誘導チャイムなども周知していきます。新設歩道などの工事設計書を作成時には、障がい者の方の意見を伺うことを基本に福祉の街づくりデザインを進めていきます。

障がい者が普通に暮らせる地域社会を

問 小川 障がい者が、地域で安心して暮らしていくにはどのような政策が必要か、障がい者の自己決定権をどう

考えるか。

答 自分で決めたその人らしい生活を実現する権利があり、トータルな支援体制が必要。来年度の自己負担軽減措置などを踏まえ対応していきたいと思えます。

障がい者の入所施設の建設

問 前原 建設についての考えは。

答 必要性は認識しています。厳しい財政状況の中で全体を通して検討していきます。



昨年度配布された無料クーポン券

